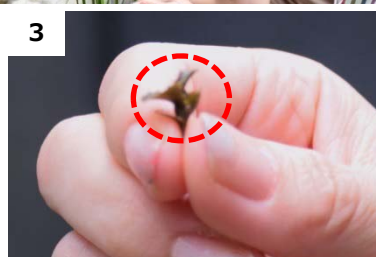


-皇居外苑のお濠元来の生きもの再生にチャレンジする「濠プロジェクト」- 大手町のオフィスビル敷地内の公開緑地「ホトリア広場」へ 皇居外苑のお濠で採取した魚類・水草等の生物を移植・導入 エリアのオフィスワーカー約 50 人が参加

三菱地所株式会社は、皇居外苑濠における水辺環境改善および生態系の再生を目的に、民間事業者として初めて皇居のお濠由来の希少な水草や生き物などの保全を行う CSR 活動「濠(ホリ)プロジェクト」に取り組んでいます。本プロジェクトは、環境省、公益財団法人日本自然保護協会、東邦大学理学部保全生態学研究室(西廣 淳准教授)、千葉県立中央博物館などの NGO や専門機関と連携した取り組みです。2018年5月19日(土)には、当社本社前の大手濠で生きもの採取を実施し、実際に当社社員が環境省の許可を得てお濠(大手濠)内に立ち入り、水草や小型魚類・エビ類・貝類などの生きもの、お濠の泥を採取しました。これらを当社所有ビルの屋上に設けたコンテナビオトープに移植、観察の上保全を行っていましたが、2018年7月27日に、大手町パークビル敷地内の公開緑地「ホトリア広場」にて、生育したこれらの生きものを移植・導入しました。このイベントでは、今回ご協力頂いている東邦大学および千葉県立中央博物館が、お濠の泥から採取した種子を復活させて育成した貴重な水草も提供いただき、これらも一緒に「ホトリア広場」へ移植を行っています。

イベントには、丸の内エリアのオフィスワーカー約 50 人がランチタイムの時間を利用して参加し、東邦大学西廣准教授による皇居周辺の水辺環境に関する講義を受けた上で、公益財団法人日本自然保護協会による実施内容説明を聞いて頂き、自らの手で生きものの移植・導入作業を実施。水草やメダカ・エビ類などの生物を人工池に導入する作業を通じ、お濠の自然環境の豊かさ、大切さを体感いただきました。



- (1) ビニール袋の中に入っているメダカ・エビなどの水生生物を人工池に導入する様子
- (2) 東邦大学 西廣准教授による講義を聴く参加者
- (3) エビモ(水草)の殖芽
- (4) 水草の殖芽を植える様子

当社は、皇居至近の丸の内エリアにてオフィスビルの開発を進めており、現在は約 30 棟の建物を所有・管理しています。街づくりを通じて地域社会に貢献すべく、これまでもビル敷地内での生物多様性保全に配慮した緑地整備や、お濠の水の浄化設備をオフィスビルの地下に導入するなど、環境共生に関わる様々な取り組みを実践してまいりました。今回の取り組みで、ホトリア広場には皇居の自然の代替地としての機能を持たせ、エリアのワーカーや来街者に広く周知する機会を持つことで水辺環境の再生の普及啓発活動を行います。

今後も、当社ならではの事業を通じ、積極的に環境・生物多様性保全への貢献を進めてまいります。

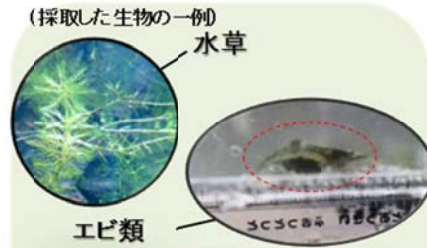
「濠プロジェクト」について

「濠プロジェクト」は、環境省、公益財団法人日本自然保護協会、東邦大学理学部保全生態学研究室(西廣 淳准教授)、千葉県立中央博物館などのNGOや専門機関と連携した取り組みです。2018年5月19日に実施した生きもの採取では、実際に当社社員が環境省の許可を得てお濠(大手濠)内に立ち入り、水草や小型魚類・エビ類・貝類などの生物、お濠の泥を採取。これらを当社所有ビルの屋上に設けたコンテナビオトープに移植し、観察の上復元と保全を行いました。

今回の取り組み



水草や生物の採取活動



(採取した生物の一例)

水草

エビ類

コンテナビオトープでの生育(一例)



■ ビル屋上に酒樽を再利用したビオトープを設置、採取した生物を生育。



ビル敷地内緑地・人工池等へ導入

- 三菱地所が開発したビル敷地内の緑地や人工池に生育した生物を導入
- 皇居外苑濠の自然環境の代替地を形成
- エリア就業者や来街者に向けた普及・啓発を目指す

採取した水草・生物

育成した水草・生物

千葉県立中央博物館
東邦大学理学部保全生態学研究室
皇居お濠の泥から
水草の再生実験・系統維持
お濠では消失したクロモが復活→



水草の提供

■ 皇居外苑濠の水辺環境について

皇居外苑濠は、近年の水質悪化や環境の変化により、水草などの生物相が貧弱であり、本来あるべき種の自然発生や定着が難しい状況にあります。



▲濁ったお濠の水面の様子(桔梗濠)

■ 皇居外苑濠での泥や水草などの生物採取活動

「濠プロジェクト」では、水草や生物のほか、お濠の底に沈む泥も採取しました。この泥には、現在のお濠の水質・環境では自然発生が難しいとされている水草の種子が含まれています。また、かつてお濠で生育していたものの、消失してしまった種の種子も含まれている可能性があります。これらの種子は、適切な環境下に移すことで、再度発芽することが期待されます。



▲採取したお濠の泥をビオトープに移す様子

■ 採取した水草、水生生物、泥の保存

採取した水草や水生生物、泥は、当社が所有・管理する「大手町ビル」屋上の酒樽を再利用したコンテナビオトープに移植。観察の上生育します。



▲ビオトープ内の水草の様子

■保全・復元した水草や生物の移植・導入

保全・復元した水草や生物は、当社が開発するオフィスビルの敷地内にある緑地や人工池等に導入し、皇居の水辺環境の代替地としたうえ、お濠を中心とした水辺環境復元と生物多様性ネットワークの拠点をつくり環境保全に寄与します。

- ・導入場所：大手町パークビルディング ホトリア広場
(所在：東京都千代田区大手町 1-1-1)



▲生物導入を行ったホトリア広場の人工池

「ホトリア広場」への生物移植・導入で実施した作業

丸の内エリアのオフィスワーカー（丸の内エリア各所で開講している市民大学「丸の内朝大学」講座参加者及び三菱地所グループ社員）約50人が参加し、下記作業を行っていただきました。

■水草植栽作業

本プロジェクトに協力いただいている東邦大学・千葉県立中央博物館より提供された、皇居外苑濠から復元した水草（エビモ）の休眠芽（殖芽）を参加者に植えていただきました。

※休眠芽（殖芽）…成長のための条件が揃わず、何年もの間成長を止めて休眠している芽のこと。皇居外苑濠の泥には、希少な水草の芽や種子が眠っていると言われています。

■生物導入

皇居外苑濠にて採取した水生生物（エビ類）や、メダカ（貴重な東京在来の種）を、ホトリア広場の人工池へ参加者に導入（人工池内に放つこと）していただきました。



復元されたエビモの殖芽

▲池の底に殖芽を植えている様子



▲ビニール袋内の生物を少しずつ池の水に慣れさせている様子

参考：ホトリア広場について

「ホトリア広場」は、皇居外苑濠に隣接する大手町ホトリア（大手門タワー・JXビル、大手町パークビルからなる街区）の西側に位置する、約3,000m²もの環境共生型の緑地広場です。皇居外苑濠の豊かな自然と歴史的景観との調和を生み出しています。

皇居の二の丸雑木林を意識した在来種や地域種を主体に構成され、緩やかな傾斜と広場を縦断する水景施設は、人、環境、生きものをつなぐ「交流の森」を創出し、訪れた人に、包み込まれるような感覚を与えてくれます。さらに、事前に生態調査を実施し、皇居周辺に生息する生きものを誘致すべく、生きものの住みかになるような工夫が凝らされています。こうした取り組みが評価され、一般社団法人いきもの共生事業推進協議会（ABINC）の「いきもの共生事業所認証」（ABINC認証）＜都市・SC版＞を受けています。

また、ホトリア広場では、生物多様性に配慮した広場として皇居を中心とする生態系ネットワーク（エコロジカルネットワーク）をつなげるための取り組みを継続的に実施しています。植栽管理や外構清掃業務の一環で、発見した生きものをチェックしたり、3×3 Lab Futureを拠点に、市民参加型の生きものモニタリングイベントを開催し、開発した「生きものモニタリングツール」を通じて、データを蓄積しており、生物多様性に配慮する都市の成長につながるべく取り組んでいます。



▲現在のホトリア広場の様子